

### 令和5年度 りんご病害虫防除暦 (JAながのみゆきブロック)

回数 散布時期 散布日 重点防除期間	IRAC FRAC コード	薬剤名	薬剤量	倍率	散布量 (10a当り)	対象病害虫 *太字は重点 病害虫	収穫前 使用規制	年間 使用回数	主な作業と注意事項及びドリフト対策
1 発芽前 (3月中下旬) 月 日	— M2	水 スプレーオイル 石灰硫黄合剤	88 ℓ 2 ℓ 10 ℓ	— 50 倍 10 倍	300 ℓ	腐らん病 ハタニ類 カイガラムシ類	発芽前	—	・石灰硫黄合剤の代わりにベンレート水和剤2,000倍(収穫前日・4回)又は ⑩ベフラン液剤25 1,000倍(6回※ただし、開花期以降3回以内)でも良い。 ・⑩ベフラン液剤25を使用する場合は、先に溶かした後スプレーオイルを加用する。 混用順 ⑩ベフラン液剤25⇒スプレーオイル

★腐らん病予防のため、せん定後の切口に保護剤を塗布する。塗布剤はトップジンMペースト又はバッチレートを使用する。

黒星病重点時期	2 4月上中旬 (展葉2~3枚) 月 日	— M7	水 展着剤(ハイテンパワー) ⑩ ベフラン液剤25	100 ℓ 10 mℓ 100 mℓ	— 10,000 倍 1,000 倍	350 ℓ	黒星病 うどんこ病 腐らん病	展葉期	6 回  (開花期以降3回)	
	3 開花始め (4月下旬) 月 日	— 9 28	水 展着剤(ハイテンパワー) ユニックス顆粒水和剤47 サムコルフロアブル10	100 ℓ 10 mℓ 50 g 20 mℓ	10,000 倍 2,000 倍 5,000 倍	400 ℓ	黒星病 褐斑病 斑点落葉病 ハマキムシ類 ケムシ類 シンクイムシ類	収穫 14 日前まで 収穫 前 日まで	4 回 3 回	・赤星病の発生が多い園は、スコア顆粒水和剤3,000倍(収穫14日前・3回)を加用する。 ・うどんこ病の被害枝は見つけ次第、切除する。
	4 落花直後 (前回より 10日後) 月 日	— 7	水 展着剤(ハイテンパワー) ⑩ カナメフロアブル	100 ℓ 10 mℓ 25 mℓ	10,000 倍 4,000 倍	450 ℓ	黒星病 うどんこ病 赤星病 黒点病 斑点落葉病	収穫 前 日まで	3 回	・今回より8月上旬までビタービット防止、つがる・中生種の油上がり防止等にスイカル1,000倍を使用する。 ・前回散布より2週間以上あけないこと。
	性フェロモン剤 設置期間 (4月下旬~) 月 日	—	ナシヒメコン			100 本	ナシヒメコンクイ スモモヒメコンクイ	—	—	・8割を園全体均等に、残りの2割を園の周辺部に設置する。 ・目通り(約1.5m)の高さに設置する。但し、周辺部はやや高い位置に設置する。 ・傾斜地の場合、園の上部に多めに設置する。

★ふじの薬剤摘果として、満開後15日前後(目通りの頂芽中心果の横径が10mm)頃に⑩マイクロデナポン水和剤85の1,200倍に、アプローチB I 330倍を加用して散布する。

褐斑病重点期間

5 5月中下旬 (前回より 10日後)  月 日	—	水	100 ℓ		500 ℓ	黒星病・黒点病 赤星病 斑点落葉病 キンモンホソガ アブラムシ類 シンクイムシ類	収穫 30 日前まで	3 回	・うどんこ病の発生が多い園は、コナケシ顆粒水和剤4,000倍(収穫7日前・2回)を加用する。 ・腐らん病の多い園は、摘果終了後にトップジンM水和剤1,500倍(収穫前日・6回)を特別散布する。 ・腐らん病の発生している枝は切除し、焼却する。			
	M3	展着剤(ハイテンパワー)	10 mℓ	10,000 倍						10,000 倍	収穫 前日まで	3 回
	4	Ⓜ モスピラン顆粒水和剤	50 g	2,000 倍								
6 6月上旬 から 6月中旬  月 日	—	水	100 ℓ		600 ℓ	黒星病・黒点病 輪紋病・炭疽病 斑点落葉病 褐斑病 すす点病 すす斑病 ナンヒメシンクイ ハマキムシ類 リンゴワタムシ クワコナカイガラムシ 若齢幼虫	収穫 45 日前まで	4 回	・ゴマダラカミキリの多い園は、この時期より産卵忌避としてガントサイドS1.5倍液(収穫30日前・3回)を主幹地際部より50cmまで塗布する。 ・カイガラムシ類の発生が多い園は、アブロードフロアブル1,000倍(収穫30日前・2回)を加用する。 ・Ⓜダイアジノン水和剤34(100g)に替えて、ⓂダーズバンDF3,000倍(収穫45日前・1回)でもよい。			
	M3	展着剤(ハイテンパワー)	10 mℓ	10,000 倍						10,000 倍	収穫 30 日前まで	4 回
	1	Ⓜ ダイアジノン水和剤34	100 g	1,000 倍								
7 6月中旬 から 6月下旬  月 日	—	水	100 ℓ		600 ℓ	黒星病 斑点落葉病 輪紋病 炭疽病・褐斑病 うどんこ病 黒点病 すす点病 すす斑病 キンモンホソガ シンクイムシ類 ハマキムシ類 アブラムシ類 カメムシ類 クワコナカイガラムシ	収穫 30 日前まで	1 回	・8月上旬までビターピット防止、つがる・中生種の油上がり防止等にスエカル1,000倍を使用する。 ・アブラムシの発生が多い園は、トランスフォームフロアブル4,000倍(収穫前日・3回)を加用する。			
	1+M3	展着剤(ハイテンパワー)	10 mℓ	10,000 倍						10,000 倍	収穫 14 日前まで	1 回
	1	ラビライト水和剤	200 g	500 倍								
		サイアノックス水和剤	100 g	1,000 倍								
8 7月上旬 から 7月中旬  月 日	—	水	100 ℓ		600 ℓ	斑点落葉病 輪紋病 炭疽病 すす点病・すす斑病 黒点病・黒星病 褐斑病 シンクイムシ類 キンモンホソガ ハマキムシ類 カメムシ類 ナミハダニ リンゴハダニ	収穫 前日まで	4 回	・エコマイド顆粒水和剤に替えて、ダニゲッターフロアブル2,000倍(収穫前日・1回)でもよい。			
	11	展着剤(ハイテンパワー)	10 mℓ	10,000 倍						10,000 倍	収穫 前日まで	4 回
	9	フリントフロアブル25	50 mℓ	2,000 倍						2,000 倍	収穫 14 日前まで	4 回
	3	ユニックス顆粒水和剤47	50 g	2,000 倍						2,000 倍	収穫 7 日前まで	4 回
	23	Ⓜ バイスロイドEW	50 mℓ	2,000 倍						2,000 倍	収穫 7 日前まで	1 回
		エコマイド顆粒水和剤	50 mℓ	2,000 倍								

9 7月中旬 から 7月下旬  月 日	—	水 展着剤(ハイテンパワー)	100 ℓ 10 mℓ	10,000 倍	600 ℓ	斑点落葉病 輪紋病 炭疽病 すす点病・すす班病 黒点病 褐斑病 シンクイムシ類 (ハマキムシ類) キンモンホソガ	収穫 7 日前まで	3 回	・ダニの発生が多い場合は、カネマイトフロアブル1,000倍(収穫7日前・1回)を散布する。 ・着色促進剤の散布(つがる):モーニングエース500倍(収穫予定日の15日~20日前の1回)10a当り500ℓを散布する。定期散布農業混用可能(ストップポール液剤との混用不可)		
	3	オンリーワンフロアブル	50 mℓ	2,000 倍						収穫 前 日まで	3 回
	M7+M4	ダイパワー水和剤	125 g	800 倍						収穫 前 日まで	3 回
	4	Ⓜ モスピラン顆粒水和剤	50 g	2,000 倍						収穫 前 日まで	3 回

★夏明・つがるの落果防止剤ストップポール液剤1,000~1,500倍を収穫開始予定日の25~7日前に1回、10a当り300~600ℓを散布する。ただし展着剤は加用しない。

10 8月上旬 から 8月中旬  月 日	—	水 展着剤(ハイテンパワー)	100 ℓ 10 mℓ	10,000 倍	600 ℓ	斑点落葉病 輪紋病・炭疽病 褐斑病 すす点病・すす班病 黒点病 キンモンホソガ ハマキムシ類 シンクイムシ類 ヒメボクトウ ハダニ類	収穫 前 日まで	3 回	・ナリアWDGはぶどう「ピオーネ」の葉と西洋なし「ル・レクチェ」の袋掛け前にかかると、果実に薬害を生じるので注意する。		
	11+7	ナリアWDG	50 g	2,000 倍						収穫 前 日まで	1 回
	6	コマイト乳剤	100 mℓ	1,000 倍						収穫 前 日まで	3 回
	28	エクシレルSE	20 mℓ	5,000 倍						収穫 前 日まで	3 回
11 8月中旬 から 下旬  月 日	—	水 展着剤(ハイテンパワー)	100 ℓ 10 mℓ	10,000 倍	600 ℓ	斑点落葉病 輪紋病 すす点病・すす班病 黒星病・褐斑病 炭疽病 キンモンホソガ カメムシ類 シンクイムシ類 ハマキムシ類	収穫 前 日まで	3 回	・シンクイムシ類の被害果は園内に放置せず水没させる。 ・輪紋病、炭疽病の被害果実は土中に埋める。 ・着色促進剤の散布(シナドルチェ):モーニングエース500倍を定期防除に加用する。(ストップポール液剤との混用不可) ・ハダニの発生が多い場合は、オマイト水和剤750倍(収穫3日前・1回)を散布する。但し収穫時期なので使用時期に注意する。		
	M4+P7	アリエッティC水和剤	125 g	800 倍						収穫 前 日まで	2 回
	3	Ⓜ イカズチWDG	66 g	1,500 倍						収穫 前 日まで	2 回

★シナドルチェ・秋映・紅玉・シナゴールド・王林等、落果しやすい品種は落果防止剤ストップポール液剤1,000~1,500倍を収穫開始予定日の25~7日前に1回、10a当り 300~600ℓを 散布する。ただし展着剤は加用しない。

12 9月上旬 から 9月中旬  月 日	— M7 4	水 展着剤(ハイテンパワー) Ⓢ ベフラン液剤25 アルパリン顆粒水溶剤	100 ℓ 10 mℓ 66 mℓ 50 g	10,000 倍 1,500 倍 2,000 倍	600 ℓ	斑点落葉病 輪紋病 すす点病・すす班病 褐斑病・黒星病 キンモンホソガ シンクイムシ類 カメムシ類	収穫 前日まで 3 回 収穫 前日まで 3 回	・輪紋病、炭疽病の被害果実は土中に埋める。
13 9月中旬 から 9月下旬  月 日	— M11	水 展着剤(ハイテンパワー) ストライド顆粒水和剤	100 ℓ 10 mℓ 66 g	10,000 倍 1,500 倍	600 ℓ	斑点落葉病 (輪紋病) すす点病・すす班病 褐斑病・炭疽病 黒星病・黒点病	収穫 前日まで 3 回	・有袋ふじは、除袋後にこの防除をする。 ・ストライド顆粒水和剤は、高温時に散布すると薬害を生じるので注意する。 ・ストライド顆粒水和剤の代わりにオーソサイド水和剤80の800倍(収穫前日・6回)でもよい。
14 10月上旬  月 日	— M7	水 展着剤(ハイテンパワー) Ⓢ ベフラン液剤25	100 ℓ 10 mℓ 66 mℓ	10,000 倍 1,500 倍	600 ℓ	斑点落葉病 輪紋病 すす点病・すす班病 褐斑病・黒星病	収穫 前日まで 3 回	・黒星病の秋季感染を予防し、越冬菌をなくす重要な防除でもある。 収穫が終了している園地も含めて防除を実施する。